

はじめに

1923年（大正12年）に南関東地方を襲った関東大震災から今年で86年になります。この関東大震災を引き起こしたようなマグニチュード8程度の大地震は、約200年から300年に一度発生するとされています。

そのような大地震の間にはマグニチュード7程度の地震が数回発生しており、平成16年に国は、千葉県を含む南関東地域においてマグニチュード7程度の地震の発生が、今後30年間で70%程度と高い確率であることを発表しました。

千葉県が独自に地震被害想定調査を行った結果では、マグニチュード7.3の東京湾北部地震が発生した場合、その被害は千葉県内で建物の全壊約6万9千棟、死傷者4万3千人と算出され、また、避難者の数は約145万人と県民の約4人に1人にあたり、まったく他人事とは言えない事態になると予測しています。

近年、日本各地で大きな地震が発生していますが、千葉県では1987年（昭和62年）の千葉県東方沖地震以降、死者が出るような大きな被害を伴う地震の発生はありません。今では関東大震災の体験者は少なくなっており、千葉県東方沖地震についても既に人々の記憶は風化しつつあります。

この防災誌では、千葉県に、非常に大きな被害を及ぼした関東大震災と、戦後最大の被害の生じた千葉県東方沖地震について、当時の写真や震災記録などから、被災の状況だけでなく復旧・復興への人々の営みについても焦点を当てています。この冊子をお読みいただくことによって、皆さんがこれから経験するかもしれない地震災害をイメージし、自分のことと考えるための一助となれば幸いです。

最後に、この防災誌の発行にあたって、資料の提供を快く御承諾していただいた多くの関係者の皆様に感謝いたします。

平成21年 3月

千葉県総務部消防地震防災課